

新春所感

展

2024年

## 夢と希望に溢れたまち菊川市!!

菊川市長 長谷川寛彦氏



市の玄関口が大きく生まれ変わろうとしているこの機会を生かし、菊川駅の南北をつなぎ、まちをつなぎ、人の"わ"を拡げるため、本年3月、駅前に新たに「人」

皆さまには、健やかに新春をお迎えの事と、お慶び申し上げます。また、日頃よりお寄せいただいておりますご支援、ご協力に対し心よりお礼申し上げます。

本年は、住みやすく、そして住み続けたいまちへと発展してきた菊川市を、未来に向けて、「夢と希望に溢れたまち」となるよう歩みを進めていく年にしたいと考えております。

安心して子育てができる環境整備のため、昨年10月、0歳から高校生年代までの「子ども医療費」の完全無償化を行いました。加えて、全ての妊産婦、子育て世帯、子どもへ切れ目のない支援を行う拠点として「こども家庭センター」を本年4月に開設いたします。

また、JR菊川駅が開業して今年で135年を迎え、昨年からは駅南北自由通路と橋上駅舎の整備が始まりました。

と「ビジネス」が集まる賑わいスペース「菊川市産業支援センターENGAWA（エンガワ）」を開設します。市の経済発展を支えてこられた事業者の方々などを対象に事業承継や経営強化などの相談、市内外の新しいビジネスとのマッチングを提供する環境を整備します。

これらの整備にとどまらず駅周辺市街地の活用についても、未来を担う高校生、大学生、住民の皆様とワークショップを開催し、魅力的なまちづくりのアイデアを取り込みたいと考えています。

駅北側エリアの持つ大きなポテンシャルを生かしたまちづくりを進め、交流人口から関係人口へ。そして定住人口の増加を図り、まち全体の魅力向上につなげていきます。

少子高齢化が進む中、地域の元気に欠かせないのが、若者の力です。名古屋、京都に続き昨年、本市で開催され

た「わかものまちなみサミット2023」では、全国初となる「菊川市こども・わかもの参画宣言」を発表し、若者が主体的に活躍できるまちづくりに進めています。

さらに、激甚化する自然災害に対応するため「菊川市防災対策強靱化事業基本構想」に基づき、大雨による浸水被害が頻発する市南部地域における雨水貯留施設の建設に取り組みます。また、市役所本庁舎敷地一帯の防災機能を高めるため、老朽化した体育館の建て替えと災害対策本部棟の一体的整備を進めます。

昨年9月に公表された、65歳から自立して健康に生活できる期間を示す県の「お達者度」では、男性は菊川市が県内トップとなるなど、地域ぐるみでの健康づくり活動が着実に実を結んでいます。

これからも、保健師等が地域へ向いて無料でミニ健康チェックを行う「茶ちやつと！出張健康チェック」の実施や市独自の介護予防体操「きくがわ体操・菊川いきいき体操」の普及推進など、健康で元気に暮らせるまちを目指し市民・地域・行政が一体となった健康づくり、介護予防を行ってまいります。

人生100年時代を迎え、行政も変わりゆく社会情勢にしっかりと適応していく必要があります。こうした取り組みを通じて、高齢者から若者まで誰もが幸せを実感できる「夢と希望に溢れるまち菊川市!!」の実現を目指してまいります。